

4 研究の仮説

本校では、研究主題を解明するために、研究の仮説を次のように設定した。

- (1) 子ども自らが問いを追求し、子どもの思考に沿った授業を展開することで、自律的に学ぶ子どもが育つだろう。
- (2) 言語活動を充実させ、自らの思考を広げたり深めたりすることで、より主体的に問題解決に向かう子どもが育つだろう。
- (3) 言語環境、読書生活、言語による表現活動の充実等を図ることで、豊かな言語能力をもつ子どもが育つだろう。

(1) 子ども自らが問いを追求する授業展開の研究

① 子ども自らが問いをもち追求する単元構成の工夫

子どもたちが学習に対して受け身ではなく、主体的・自律的に問いを追求し問題を解決していく学びを目指す。

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）「国語科の目標」に「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力」を「日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う」とある。

子どもたちは、日常生活で「人との関わりの中で」学び合い、その中で言葉の意味や働き、使い方を的確に捉え、言葉を理解し自分の思いや考えを深め伝え合う力を高めていく。その学びを通して思考力や想像力を養っていきたいと考える。

伝え合う力を高めることは、「互いの考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりすることを高める」ことであると説明がある。また、思考力や想像力を養うことは、「言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力を養うこと」であるとされている。子どもたちは、教材文の言葉を手掛かりに論理的に考えたり想像したりし、自分の考えを友達と伝え合う過程を通して、学びを深めていくことができるだろう。

本校の研究では、子どもたちが教材に対して、「ふしぎだな」「おもしろいな」「みんなで考えたいな」と感じた疑問や教材に対しての思いを大切にし、それを学習問題として授業展開の軸とし、単元を構成する。子どもたちの中には、教材と出合っただけで問いをもてない子どももいれば、学習問題を生み出せない子どももいる。しかし、それでもいい。必ず初めから問いをもって学習に取り組まなければならないことはない。問題を解決する過程で、友達が考えた学習問題が自分の考えと重なったり、ともに学ぶ中で自分の考えや思いが明確になり学びを自覚したりすることもある。どこかの段階で子どもたちの心をゆさぶり、自らの問いをもち、それを追求することができる授業を展開していきたい。

② 子どもの思考に沿った授業展開

一人一人の学びをよく見つけ、子ども一人一人に寄り添った支援・指導を行っていく。教員は子どもの学習状況や思い、その背景にあるものをよく見取り、それを座席表に記すことで、子どもの考えや思いの変容や成長をしっかりと把握する。そして、それをこれからの学

びにつなげていく。教員が子ども一人一人の思いや学習状況を丁寧に見取り、それを子どもたちの学びにいかしていくことで、一人一人が問いを追求することができるだろう。また、子どもの疑問や思い、自然なつぶやきを授業の中にかすことで、追求の過程が子どもの中から生まれてきたものであることを実感できるような授業展開となり、子どもたちの深い学びとなるようにする。

（２）主体的に問題解決する過程を大切にしたい学び

子どもたちが発した疑問や思いなどの学習問題をもとに単元構成を工夫すること、単元を貫く言語活動を計画・展開すること、また、自分の考えをもち友達と共有することを通して子どもの学びはより深まっていくと考える。身につけさせたい言語能力を焦点化したうえで、子どもたちのこれまでの学習経験を踏まえて単元の特徴に合った言語活動を選び、学びの過程が子どもたちにとって魅力のあるものにする。その際、子どもたちが学びの必然性を実感することが大切である。

また、「学習の歩み」を教室に掲示することで、目的意識や学習の見通しをもったり、学習をふり返ったりすることができ、子どもたちはより自律的・主体的に学びを深めていくだろう。授業以外の休み時間やすきま時間等、自分の都合に合わせ、子どもたちが自由に「学習の歩み」を目にすることで、その学びは繰り返され、さらに発展しはっきりとしたものになる。子どもたちが何を何のために学ぶのか、どのような過程で学びを進めていくのかを明確にすることで、より主体的な学びにつなげられるだろう。子どもたちがじっくり教材に向き合い、考え追求できるような構成を計画する。

（３）言語環境、読書生活、言語による表現活動の充実等の日常的な取組

子どもたちが自分なりのものの見方や考え方を形成するためには、言語活動を充実させること、さらには多様な場面や状況における学習を積み重ねること、また継続的な読書などが必要であると考えます。

子どもたちが学ぶ環境となる教室掲示や校内の各掲示板などの言語環境を整えることで、子どもたちの「言葉への意識」を高め、言語活動を支える力となると考える。

また、読書生活を充実させ、子どもたちの言語能力や読解力の土台となる力を高めていきたい。図書室の環境整備や各学年の図書を充実させることで、子どもたちの読書習慣や読みを豊かなものにする。また、子どもたちにとって楽しく魅力を感じるような読み聞かせや読書に関する取組も日常的に行っていく。

「国語集会（レッツ！平小タイム）」として、子どもたちが言葉に親しむ言語活動、表現活動に取り組む。異学年班で学年の枠を越え、子どもたちがつながりをもちながら、ともに活動することで、より豊かな言語能力が高まっていくと考える。